



学校だより

学校の教育目標 「じりつする子供の育成」



富山県小学校教育研究会 体育科研究推進校

体育科の研究校であること

校長 内山 真之

令和6、7年度と県小学校教育研究会の体育科の研究指定を受けています。平成4、5年度の音楽科、平成19、20年度の図画工作科以来、久しぶりの研究指定です。一昨年の夏に、教科が「体育科」に決まったときは、正直、困ったなと思いました。

本校は、「体育的活動があまり盛んではない学校」だったからです。町体育大会前に朝練習もありません。短縄跳び発表会もなく、持久走記録等の掲示もないのです。2クラスある学年では、学年全体での体育を行っていたので、集合や準備に時間がかかり、実質の運動時間も少なく、技能が高まりません。そんな本校が、体育科の研究校になるのです。多くのピンチは、ほとんどがチャンスです。今では、体育科の研究校で本当によかったなと思っています。



ここに挙げた課題は、現在、全て解消しています。その上、大型ポスタープリンターも入り、「てつぼうルーム」「ハーモニーひろば」「体育器具庫」も使いやすく整理されました。「なわとびボード」も手作りされ、いろんな種類のボールや道具も揃いました。

前大門小学校校長 阿尾昌樹先生には、「決定権を子供に委ねるから、子供に責任感が育つ」「妙な苦労させない」。二重跳びや逆上がり（基本的な動き）は教師が指導してできるようにする。そこから子供自身が取り組んでいく（支援）」といった具体的なアドバイスをいただきました。私たち自身も県内外の学校の授業参観に出かけてきました。

本校の先生たちは、自分たちで試行を繰り返し、楽しさと難しさを体感しながら、新種目を創り出していきました。日常的に「授業の話」をすることで、職員の関係性はよりよくなり、体育を中心に授業力も向上していました。総合的な学校力が高まっています。

1年生は「まとあてゲーム」、2年生は「ドーナツボール」に取り組みました。ゲームを楽しみながら、「投げる」「受ける」の技能も高めています。1年生でもビュンとボールを投げるようになっていきました。2年生では、ゲームに負けて涙を流す仲間を「〇〇君、よかったです。がんばったよ」と励ます姿がありました。

2年生のある子がとても落ち着いてきて、教室での話し合いも上手になっていました。担任の先生は「体育の授業のおかけでしょうか。それしか思い当たらないのです」と話されました。教師が子供のために本気で考え、ねらいを明確にして構想した授業では、子供たちは確かに育っていくようです

入善小学校は、「子供の体力向上において顕著な成果を収めた団体」として、令和7年度「とやま県民スポーツ大賞 地域活性化部門」の優秀賞を受賞しました。しかし、私たちは「まだまだ」ですし、「これから」であることを自覚しています。今後も、「運動を楽しみ、自ら技能を高めていく、じりつした子供」を育んでまいりたいと思います。



11月5日 県東部小学校教育課程研究集会体育科部会

「体育科」の研究推進校として、2つの授業を公開し、2年間の研究成果について発表しました。県内から約180名の教員が参加しました。「子どもたちとつくった2年間の体育」の「研究まとめリーフレット」は、近日、保護者の皆様にも配付いたします。

2学年体育科「ドーナツボール」

授業者 國木 裕里



5学年保健「わたしたちの命を守ろう～事故とけがの防止～」

授業者 勝田 優太



11月11日 入善高校生との花苗植えと交流会（秋編）



「入善高校農業科」の皆さんと2年生児童との交流会を実施しました。春に続いて、入善高校の皆さんのが育てられた秋植えの苗をプランターと一緒に植えました。

その後、グラウンドで一緒にゲームをしました。2年生も高校生も笑顔が多くて、帰りには、高校生が「楽しかったです」と声をかけてくれました。

11月19日 学習参観・学校保健委員会「心と体を整えよう」

学習参観への多数のご来校ありがとうございました。

学校保健委員会は、テーマを「心と体を整えよう」とし、まずは保健委員会が発表してくれました。そして、講師は、インド政府公認ヨガインストラクターの宮田 里美先生。「体と心が整う『ヨガ』ってなあに？」と題して、体のバランス、心のバランスについて、イライラの対処法についてお話しいただきました。実際に体を動かしながらの楽しい講演会でした。

